

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070201039		
法人名	株式会社 ツクイ		
事業所名	ツクイ松本西グループホーム		
所在地	長野県松本市笹賀5514-6		
自己評価作成日	平成27年6月25日	評価結果市町村受理日	平成28年3月9日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部
所在地	長野県松本市巾上13-6
訪問調査日	平成27年7月27日(月)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「地域密着」「笑い・笑顔をお年寄りに」をモットーに様々な活動を行なっています。地域密着としては、町会内の一員として地域の催しに参加したり、地域の方をホームに招いて催しを開いたり、地域ボランティアの方々に来て頂いたり、色々な「人のふれあい」を大事にしています。また、週1回行なっている施設周辺のごみ拾いをする「クリーン活動」も大事な活動の1つです。
 「私たちは1人ひとりの出来ること、したいことを最大限に活かし、支えあい、地域と共に暮らす協働者であり続けまます」という理念に基づいたケアが出来るように努め、お年寄りとそのご家族が元気で安心して生活できるように自宅に近い空間を提供できるよう支援させていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年度開所10年の節目を迎え、11年目の新たな歩みに取り組んでいるホームである。これまで、地域密着型サービスが有する意義をふまえ、地域の一員としての活動を職員や利用者と共に取り組んで来られ、地域との双方の付き合いに於いては確かな成果をあげている。理念にも、出来ることやしたいことを最大限に活かし、支えあう姿を明示し、利用者のみならず、地域の方々と共に活動しながら、さらに地域の中の核となる事業所の姿を発信していく姿勢を管理者よりうかがい、今後に期待感のあるホームである。また、ホーム内は、ほどよい生活空間を有し、施設っぽさをあまり感じさせない環境となっており、安心して過ごせる日常生活を支援している。職員は、笑顔で集える場所づくりにやりがい感を持ってあたり、利用者や家族の安心や信頼を確保している。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(りんどう)		項目		項目	
項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印	項目
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>事業所に理念を掲げ職員も日々、地域の方との交流、関係作りを大切にしている。</p>	<p>昨年度、開所10年の節目にあたり、法人全体の見直しが行われ、ホームの理念についても再確認を行っている。毎朝礼時や毎月のミーティングの中で折に触れて取り上げ話し合いを行い、職員全体の共有化を図り、支援に繋いでいる。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の行事に参加したり、ホームの行事に来て頂いている。畑での活動、散歩、毎週のクリーン活動時等には挨拶し日常的な交流がある。ふれあい通信の回覧。</p>	<p>地域住民の一員として毎週のクリーン活動(周辺のゴミ拾い)に利用者に参加したり、地区の公民館でのお茶会に出向く楽しみ支援や、ホームのお便り「ふれあい通信」を町会へ配布する等、双方向の繋がりを大切に取り組んでいる。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>ふれあい通信の回覧にて毎月どのような活動を行なっているか知ってもらっている。運営推進会議、行事参加の際、実際の様子を見ていただき認知症の理解、支援に繋げている。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>約2ヶ月に1回運営推進会議を開き状況報告、話し合いを行なっている。要望、意見はサービスの向上に活かす様努めている。</p>	<p>概ね2ヵ月に1回開催。状況報告やホームの勘案事項などについて詳しく報告し意見を頂いている。ホームが目指す姿や具体的な活動を示し、理解を頂くなど会議を活かした取り組みを行っている。運営推進委員の地域メンバーの新たな依頼については現在取組中である。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>行政と連絡を取り、協力関係を築けるよう取り組んでいる。</p>	<p>認知症サポーターの養成を地域住民と共に取り組みたい意向の発信・協力依頼や、行政窓口に出かけた時には、ホームの「ふれあい通信」を持参、また介護認定更新時の連携など、協力関係を築くよう努力している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>ご家族様にも説明した上で、安全の為、玄関の施錠をさせて頂き、職員間でも日々のケアが拘束にならないか気をつけながら業務にあたっている。</p>	<p>ケアのあり方や環境整備について、法人全体としても日頃から事例を通して研修や検討を行い、より良い支援に努めている。ホームの立地・安全面などにより、玄関の施錠は行っている。</p>	<p>やむを得ない場合の要件を勘案すれば、常に施錠が必要なのか、その人らしさを大切にしたいケアのあり方や日常の工夫などについて継続的な取り組みを希望する。</p>
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会、ミーティングなどで学び、日々のケアが虐待に繋がっていないか職員間で意識し、お互いに情報交換することで防いでいる。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>活用されているご利用者がいるので、実践を通じて制度を知る機会にはなっている。他者の必要時も活用できるよう支援していく。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>管理者、計画作成担当者を通じて、ご家族様の不安、疑問点を尋ね、十分に納得して頂いた上で対応している。</p>		
10	(6)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱を設置している。また、来訪時連絡時には、こまめにやり取りをし意見要望等を聞きやすい関係作りに努めている。</p>	<p>日頃から、ふれあい通信や職員手書きのお便りにより、利用者の様子などをこまめに知らせ、運営推進会議の案内は全ご家族に通知し、関心を寄せて頂き多くの出席を得ている。また、来訪時には必ず意見を聞くことを心がけて接し、要望を出してもらえよう配慮している。</p>	
11	(7)	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回のミーティング、朝礼時等で管理者に伝え可能な限り反映してもらっている。</p>	<p>管理者は毎月のミーティングで職員意見を聞くと共に、日頃から声をかけて要望を聞くよう努め、必要に応じて個人面談も行っている。ふれあい通信作成や物品発注などの役割を通して、職員がやりがいを持ち主体的に活動できる体制の配慮もある。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	本社にて職場環境、条件の整備が図られている。業務の見直しを常に行ない、働きやすい環境作りに努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外で定期的に研修が行なわれている。研修希望者には、参加できるよう勤務調整している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会、会議、訪問見学で他事業所との交流はあるが、職員同士の交流はほとんどない。管理者が多い。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の不安、要望を聞きながら、どのようにしたら安心して生活できるかを考えている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安、要望を聞きながら安心して生活できるかを説明し、プラン内容に反映したりし、関係作りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っている事等を一通り伺った上で、現段階で優先すべきことを考え対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護するという意識はあまりもたずに、協働者という考えで、お互いの足りない面を補いながら関係、雰囲気作りしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の思いに寄り添いながら、ご家族様、ご本人様の関係性を大切に支援している。ご家族様と同じ思いを共有できるよう月1回の手紙で様子を伝えたり訪問時、連絡にてこまめにやり取りしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のお茶会の参加 希望があればなじみの美容院、かかりつけ医、電話連絡できるよう支援している。面会にも来て頂いている。	衣類の交換にきていただくことや、外泊・外出、お孫さんが来訪するなど、家族との関係継続を大切にすると共に、公民館でのお茶会参加や、馴染みの美容院利用、電話の取り次ぎなど... 大切にしてきた人や場の繋がりが途切れない支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有のホールで過ごさせることでご利用者様同士の関わり合いがある。 関係性を職員が把握し、介入しながら良い関係を築けるよう努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も面会に行かせて頂き、必要、希望があれば相談、支援に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で言動、表情から気持ちを汲み取り、これまでの生活歴から考え、また、相手の立場になって検討している。	独自のアセスメントにより生活歴を把握し、その利用者らしさや思いをくみ取り、毎日の介護記録の共有により、検討しながら支援に繋いでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人様、ご家族様から生活歴等を伺い記録、申し送りをし全職員が把握できるように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの様子観察に努め、記録に残りし、申し送りをし現状把握できるようにしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様ご家族様の意見要望を取り入れ、カンファにて職員、管理者で課題、ケア等について話し合いプランに反映している。	各フロアの介護計画作成担当者を中心に作成した、計画に基づいた日々の介護記録等が適切に記録されカンファレンスが行われている。カンファレンス・モニタリング票には職員一人ひとりが評価を入れ利用者等の満足欄等も分かりやすい記録・様式となっており、状態に即した介護計画となっている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきは記録に残し職員間で共有し、実践、プランの見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスや対応以外にも、職員の知識、アイデアを出し合って柔軟な対応が出来るよう努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周辺施設、民生委員、警察、消防署等と連携を図っている。地域の方にボランティアに来ていただくこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご本人様、ご家族様の要望を伺い、決めている。</p> <p>ホームのかかりつけ医には、状態等丁寧に報告している。</p>	<p>本人や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援し、通院は職員が代行する場合もある。かかりつけ医とは受診記録により、連携が図られ受診後の家族への報告・連絡なども適切に行われている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>週1回の訪問時、24時間体制なので連絡を取り、適切な指示を受けている。看護師とのノートもあり、情報交換もしている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>情報交換、相談を出来る限りこまめに行ない、安心して治療、早期退院できるよう努めている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時、重度化等になった際の、説明をさせていただき、話し合いまた、理解して頂いている。</p>	<p>利用者に示す重度化・看取りの指針が作製されており、ホームが対応しうるケアについて、契約時に説明し理解を頂いている。また、利用者等の意向を尊重する姿勢を示しながら、法人が持つ他事業との連携を図り、在宅での看取りを支援した経緯がある。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>消防による講習や研修にて訓練している。緊急連絡網を作成し事務所に提示している。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回避難訓練を行なっている。地域の方々にも参加していただいている。</p>	<p>消防計画に基づき年2回消防署の協力を得て避難訓練を実施。避難先施設の協定締結や飲料水保管の協力体制も確保している。夜間想定通報・避難訓練を行い、地震対策として頭巾の備えもある。今後AEDを含めた心肺蘇生法の訓練も実施予定となっている。</p>	<p>ホームは2階建てであり、避難経路や特に夜間は人的体制が手薄になるため、職員が確実な避難誘導が出来るよう、実践的な繰り返しの訓練が望まれる。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重しその方に適した言葉かけや、対応に努め、会議等でも見直している。	外部研修後、その研修内容を活用して、職員が利用者になって過ごしてみる体験研修を設け、職員の対応や利用者の立場を振り返り、様々な気づきの共有を図り、利用者一人ひとりを尊重した対応に取り組んでいる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	無理強いせず、自己決定できる場面を作っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペース、希望を大切に、できる限り個別性のある支援をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思表示出来る方には選んで頂いている。また、これまでの習慣、こだわりなどから、その方らしい身だしなみに配慮している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用様と行っている。 季節の食材、献立、ご利用者様の好みを取り入れ、形態にも工夫し職員と共に食事時間を楽しんでいる。	週2回来る移動販売で利用者と共に食材の買い物を行い、各フロア毎、その日の担当職員が利用者の好みや季節などを考慮して献立を立てている。時にはテーブル上で焼きそばや餃子の焼き上がるのを楽しむなど、利用者の力や五感を活かす食の楽しみを支援している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を日々確認している。 少ない方は、申し送りし、適切に摂取できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合わせたケアを毎食後行なっている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しさりげない誘導、確認し状態に合わせた支援をしている。	分かりやすい「便所」の手書きの表示や排泄用品・排泄用具(ポータブルトイレなど)の使用にあたっては、一人ひとりの状況に応じて柔軟に対応し、排泄の自立に向けた支援を大切にしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、食材、乳製品、体操等を取り入れ予防しているが、下剤も使用している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る範囲で、好まれる時間帯で入浴の誘いをしている。断れた際は、タイミングをみて誘っている。	週2回以上を目安に、利用者の「気持ち良かった」という満足感を大切に入浴して頂いている。入浴を拒む場合は言葉かけや対応を工夫したり、また、同性介護を希望する場合も意向を尊重し、場合によっては了解を頂くなど、無理のない入浴支援に努めている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	習慣、希望、体調等に合わせ休息を促している。夜間は特に、音、光、室温に注意し、眠れない方にはマッサージ、暖かい飲み物等を支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	説明書を読んだり医師、薬剤師、看護師からの説明で把握している。薬変更時は、申し送りを徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事をお願いすることで経験、知識を発揮する場面を作っている。 嗜好品も希望に合わせ提供している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に沿っては難しい面があるが、庭に出たり散歩、畑、ドライブにと外出はしている。 季節にあった外出行事も多く取り入れている。	ホーム周辺の散歩、畑作り、地区行事への参加や、季節毎の日帰りドライブ・神社の習わし等の外出支援に努めている。お弁当を持参し、外出先の理解により食事をさせて頂いたり、また、利用者の意向に添い外泊や外食に出かける等、家族の協力や連携を大切に支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されている方はいないが、買い物時希望があれば所持できるよう支援していく。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各ユニットに電話設置しており、自由にかけただけのようにしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり、手作りの装飾品で季節感を出している。 常に不快がないか注意している。調理の音、においは生活感に繋がっている。	ホールには食卓の他、過ごしやすそうなソファが配置されゆったり感がうかがえる。ほどよい光、温湿度管理の中で、調理の音やにおいが漂い生活感のある暮らしを支援している。トイレや風呂場なども違和感の少ない家庭的な環境となっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでご利用者様それぞれの位置がおおよそ決まっておりますが、気に入った場所となっている。居室でも自由に行き来して過ごされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様を使い慣れた家具、小物、写真等を配置している。居室内は、使用していただけるようお話しており、自由に持ってきていただけるようお願いしている。	造り付けの洗面台や押し入れの他、思い思いに持ち込まれた生活必需品により居心地の良さを確保している。洗面台に置かれた化粧品、ベッドで本をめくる姿などがあり、その利用者らしい居室を大切に支援している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様の動線上には障害になるものは置かないようにしている。 居室内では、危険が考えられる場合は、ご家族様とも相談し配置を考えている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に理念を掲げ、朝礼時、会議時に確認し実践に努めている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事、事業所行事でお互いに参加し、小学生訪問、地域のお茶会、ボランティア等の交流している。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に月1回の通信を回覧し理解、支援を呼びかけまた、相談窓口があることを伝えている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね2ヶ月に1回開催し意見交換し質の向上に努めている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	窓口は管理者ではあるが、連絡を取り協力関係に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関の施錠はしているが、入居時に説明しご理解得られている。現在、身体拘束はしていないが、日々、気にしながらケアにあたっており、勉強会も行っている。リスク会議でも話し合っている。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会を行い、意識を高め日々、見逃さないよう努めている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者が対応しており、全職員が理解していない。支援できる体制が正直万全とはいえない。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約は、全職員が対応していない。説明時は、時間に余裕を持って料金、リスク、重度化、人員体制等詳しく説明している。</p>		
10	(6)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱を設置している。来訪時、連絡の際にお話を聞き、対応できるように努めている。</p>		
11	(7)	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>個人面談、会議、朝礼時等に意見を聞きだしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の相談等、聞くよう心がけている。会議では、業務の見直しをし円滑に回るよう努めている。 キャリアパス制度あるも、上手く活用されていない。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修、資格取得の機会を増やし個人のスキルUPに繋げている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流が少なく、意見交換、質の向上ができていない。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の観察、何気ない会話の中から不安、要望を把握し会議で話し合いをしている。ご本人様との信頼関係に繋げている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来訪時、連絡した際に、近状報告し傾聴する姿勢をつくり、些細なことでも記録におとし職員間の情報共有し関係作りしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時には必ず、意見、要望を聞いているので会議で話し合い見極め、プランに反映している。結果もこまめに報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	協働者として助け、助けられる関係性を築き、起動哀楽を共にし日々、一緒に過ごしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回の手紙に写真付きで報告し、情報を共有している。外出、外泊を無理なく促し、職員の思いも伝えながら共に支えていくようにしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人ひとりの生活習慣を出来る限り尊重し、知人、友人の面会いつでも可能であることはご家族様にはつたえているが、一部の方のみである。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールで過ごさせている事がほとんどで、家事、工作等で関わり合っているが、トラブルもあるので職員の介入が必要である。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、面会に行かせていただくことはあるが、ご家族様からの相談はあまりない。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、何気ない一言も聞き漏らさずにした、言動、表情から汲み取り、相手側にたって考え検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時にご家族様、ご本人様から聞き取るようにしている。入居されてからもご本人様の発言を元にご家族様に聞きとることもしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の生活リズムを理解し小さな動作も把握し、見守りする時間を多くすることで現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の要望や思いを反映する為に全職員で意見交換しプランを作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づき、小さな出来事も記録に残し、プランの見直しに活かしている。 食事量、水分量、排泄表作成し情報共有に努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の状況に応じて通院、オムツ発注等、柔軟な支援に努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周辺施設、民生委員、警察、消防署等と連携を図っている。地域の方にボランティアに来ていただくこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご本人様、ご家族様の希望に応じて対応している。</p> <p>かかりつけ医とは、こまめに連絡し相談している。</p>		
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>週1回の訪問時、また24時間体制なのですぐ連絡し報告、相談している。</p> <p>看護師とのノートもあるので、些細なことでも記入し情報共有している。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時、情報交換しその後も、出来るだけ連絡を取り、早期退院に努めている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時、重度化等の時になった際に、説明させていただき、話し合いまた、理解して頂いている。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>消防署に依頼し講習を受けまた、勉強会をおこなっている。</p> <p>マニュアル提示し対応している。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回訓練し、地域の方々にも参加して頂いている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会、会議でも話し合っている。 個々にあった声かけ、周りに配慮した声かけ、一人ひとりを尊重した声かけをしさりげなく対応するよう努めている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側が決めたことを押し付けず、些細なことでも確認、自己決定する場面を作っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な時間の流れはあるが、一人ひとりの体調をみて、その時のご本人様の気持ちを尊重し支援している。 晩酌を楽しまれているご利用者様もいる。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣を把握し、意思疎通が困難な方には、介入している。出来る方には、おしゃれを楽しんでいただいている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様と一緒に作業し、同じテーブルで同じ献立でお話しながら楽しい食事が出るようにしている。 季節の食材、献立を一緒に考えたり、個々に合った形態で提供している。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	使用した食材を記録し、食事量、水分量を日々確認し把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、個々にあったケアをしている。口臭にも注意している。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>排泄パターンを把握しトイレ誘導している。なるべく、オムツは使用しないよう日々検討している。 自尊心、羞恥心にも配慮する。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>水分、食材、乳製品、体操等を取り入れ予防しているが、下剤も使用している。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>入浴日は決めてあるが、ご本人様の意思を確認してから入浴していただいている。 断られる方には、翌日、時間差、職員をかえてみるなど工夫している。</p>		
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>生活のメリハリをつけ夜は眠れるよう努めている。夜は特に、音、光、匂い、室温に注意を払っている。 個々の状態に合わせていつでも、休息できるようにしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を把握し理解し服薬している。飲み込むまで確認している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に趣味、特技を聞き取りしているので活かしている。 出来ることを見つけ出し、行っていただいたらその都度、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節感を与えられるような外出レクをしたり、畑作業、その日にご本人様が発言した内容を出来る限り実行し楽しんで頂いている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでは、金銭所持は控えて頂いている。 買い物時は、所持を促してはいる。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各ユニットに電話設置してあり、自由にかけただけのようにしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	植物、ソファ、本棚等設置し家庭的な雰囲気を作り出すようにしている。 季節を感じられるように飾り付けと一緒に考え工作している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に気に入った場所あり過ごされ、ご家族様等が来訪された際は、居室または空間を作るようにしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は自由に使用して頂けるようおはなあり、入居時には、使い慣れた物を持ってきていただけるお願いしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況に合わせて環境整備に努めている。自立して歩行できるように手すり周辺には、なるべく物を置かないようにしている。		

目標達成計画

作成日:平成28年1月26日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2 ・ 3	・冬になると特に施設利用者様と地域とのつながり不足が見られる。 ・ふれあい通信簿の回覧はあるが会話を通してのつながりは少ない。また、地域貢献にも力を入れる必要がある。	・施設周辺の方、又は病院、学校等へのアピールを行う。	・ふれあい通信の回覧。 ・ボランティアの指導。 ・地域行事への積極的な参加。また、施設行事への促し。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。